PR

おはようございます

JA木曽 中部支所　金融共済課
渉外調査役　三輪 翔太

日々組合員、地域の皆さまのお宅へ伺い、共済を通じてご希望に添えるよう心がけております。責任も重大ですが、お客さまから頂く、共済への感謝の言葉に喜びをかみしめ、次への励みにしております。現在ＪＡでは、日頃のご愛顧に感謝を込めて実施している３Ｑ訪問活動で、ご加入内容の確認や見直しを提案しております。より充実したサービスで皆さまに安心をお届けできれば幸いです。

健康Q&A

軟骨直下で骨折？ エックス線検査では見えないことも

急に股関節が痛むようになり治らない

Q これといったきっかけが思い当たらないのに、急に股関節が強く痛むようになりました。医療機関に受診したところエックス線検査では特に問題ないと言われましたが、なかなか痛みが取れません。（80歳、女性）

A 股関節は骨盤の受け皿（寛骨臼）に大腿骨の頭（大腿骨頭）がはまり込む構造になっています。大腿骨頭に負荷がかかった場合に、体重を支える箇所の軟骨直下で骨折を生じることがあり、これを大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折といいます。

骨粗鬆症により骨が弱くなった高齢者で、長時間歩いた・つまずいた・ひねったなどの軽い外傷があったり、時として思い当たるきっかけがなくても発症することがあります。若年者でも過酷な活動で生じることがあります。発症直後は急に強い股関節の痛みを訴え、歩くのも大変なほどですが、エックス線写真では異常がはっきり見えないこともまれではありません。その場合にMRI撮影で病変が判明することがあります。

治療は、まずは体重をかけないようにしながら修復を待ちます。また骨粗鬆症の治療をされていない場合は薬物治療を開始します。しかし、約半数は変形が進行するとも言われており、強い痛みが長引き、エックス線写真でも分かるほどに骨頭がつぶれてきた場合は、痛みを軽減するために人工股関節手術に至ることがあります。エックス線検査だけでは原因が分からない股関節痛が長引く場合は、専門の医療機関を受診することをお勧めします。

（JA長野厚生連長野松代総合病院
整形外科部長　中村順之）

お知らせボード

★ＪＡ農機＆資材フェスタ2023

14日(金)午前9時～午後4時、15日(土)午前9時～午後3時、長野市のエムウェーブで。農作業の効率化や品質の高い収穫を支える農業機械や関連資材の展示会。4年ぶりの開催。大型モニターでスマート農業の最前線を紹介するほか、農業用ドローンの展示やラジコン・乗用各草刈り機の実演、体験会なども。入場無料。㊐全農長野農業機械課（☎026･236･2237）

★第62回農村医学夏期大学講座

21日(金)・22日(土)、佐久市臼田の佐久総合病院農村保健教育ホール。ZOOM同時配信と併せて開催。メインテーマは昨年に続き「地域医療をともにつくる」。本年度の若月賞受賞者の講演のほか、来年4月から適用される勤務医の時間外労働時間制限をはじめとした「医師の働き方改革」を通して、持続可能な医療を考える講演やシンポジウムで構成。受講料は2日分3000円、1日分1500円、高校生以下はそれぞれ1000円、500円。㊥㊐同病院健康管理部 ☎0267･82･2677

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

持続可能な地域社会へ
ＪＡは取り組んでいます

8 働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
15 陸の豊かさも守ろう
17 パートナーシップで目標を達成しよう

県内最大の産地抱えるＪＡあづみ

存在感増す夏秋いちご

イチゴは一般に冬から春のフルーツ（分類上は野菜）として親しまれていますが、近年は「夏秋いちご」と呼ばれる四季成りの品種が夏場に存在感を示しています。先月から出荷が始まった県内最大の産地を抱えるＪＡあづみ（安曇野市）を訪ねました。同ＪＡの夏秋いちご部会は昨年の日本農業賞長野県代表（集団組織の部）にも選ばれています。

昼間の温度上昇を抑えるため、ハウスには日光を遮るカーテンを設置。左で巻き上げ操作をしているのがＪＡあづみ農産課の手塚達也係長（あづみアグリサービスのハウスで。以下同）

巻き取った状態の遮光カーテン

3軒からの始動

イチゴは、生食以外に洋菓子のトッピングなど年間を通して需要があります。これらの用途に従来は、主にアメリカを中心とした輸入物が使われていましたが、生ものだけあって身近な国産への要望が根強くありました。ここに目を付けたのがＪＡあづみです。農家の高齢化もあって、より軽く、負担なく栽培できる品目が求められる背景がありました。２００４年、３軒からのスタートでした。

一番の壁は夏場の高温期対策でした。夏秋いちごが花芽を付ける適温は23度。本州では標高８００㍍以上の冷涼な地域が適地とされているのに対し、安曇野は５５０～７００㍍。何らかの対策が求められていました。

栽培は1㍍ほどの高さに組んだベンチに培養土を入れ、株元に通したチューブから水と肥料を供給する養液栽培。当初はここに、培地の冷却用地下水を流す専用チューブを追加する大掛かりな仕組みを導入したほどでした。

現在は、その後登場したさまざまな遮光資材を利用。栽培ベンチの上に巻き上げ式のカーテンを設置することで、コストを抑えつつ温度上昇を防ぐ対応が一般的になっています。

市場部部会長の山縣敦さん（右）と業務部部会長の荷村健治さん（左）

高温期対策 独自の栽培管理

液肥を供給するパイプ

こうした物理的対策の一方、梅雨明けの7月下旬から8月上旬の最も暑い時期は、花や実を全て摘んで株の養成に専念させる「中休み」に当てる栽培管理で対策を進めています。

「当初は適度に花芽や果実を摘む程度でしたが、暑い中で実を付けるのはイチゴの株にとって大きなストレスになります。生産者と試行を重ねた結果、思い切って休ませる方が秋口の収量アップにつながることが分かったのです」と同ＪＡ農産課の手塚達也係長。高温に強い品種の選定、導入とともに同ＪＡ独自の栽培管理を追求してきました。

若手多い部会員

２００７年には夏秋いちご部会が４軒の農家でスタート。本年は47軒で栽培面積は6・5㌶に拡大。全国でも有数の産地に成長しました。部会員の6割以上が40代と若いのも特徴です。高設ベンチのハウス栽培のため初期投資はかさみますが、トラクターのような大型の機械は要らないので、新規参入のハードルが低いことも一因です。ただし、非農家の場合、ハウスを建てる農地の確保が課題になっています。

部会は市場出荷をメインにした市場部と、製菓メーカーと直接取引する業務部の2部制。市場部は出荷に当たり、それぞれの農家が規格に従って選果、パック詰めする作業が加わります。業務部は、加工業者とやり取りする通い箱を利用したバラ出荷になるため、選別と荷づくりに割く労力が軽減されるのが利点です。

市場部部会長を務める山縣敦さんは、妻の両親がイチゴ栽培を手掛けていたことから移住して就農、11年目になります。「近年はデパートやスーパーから生食用の要望も多く寄せられています。粒の大きさ、数など要望は多様ですが、『夏にもイチゴ』の期待に応えられるよう毎回、試行を重ねています」と現状を語ります。

業務部部会長の荷村健治さんはＪＡを定年前の56歳で退職し、キュウリなどを栽培していた実家のハウスを継承。イチゴ栽培に転換して10年近くたちました。「やっと作り方が分かってきた段階です。80歳まで続けられる仕事だと思うので、これからです」と意欲を燃やしています。

部会では栽培管理などネットで情報共有する仕組みを整えつつあり、品質、量とも一層の向上を目指しています。同ＪＡは、さらなる出荷先開拓を目指し、「地元企業でも興味があれば連絡してほしい」と部会の取り組みを後押ししています。

養液栽培の心臓部。右下から地下水をくみ上げ、フィルター（右の黒いタンクなど）を通して浄化。左の黒いタンクは液肥。混入器(上の水色部分)で液肥と浄化した地下水を混ぜて各ハウスに送り出す。送出作業はタイマーで自動化されている

【夏秋いちご】冬から春にかけて出回るイチゴが「一季成り」といって一年間に1回しか実を付けないのに対し、夏や秋にも実を付ける「四季成り」のイチゴ。一季成りに対し一般に、酸味が強く、従来は加工用が中心でしたが、品種改良で生食でもそん色ない品種が出てきています。

食と農で地域に笑顔をつくります
～次代につなげる農業・組織・経営基盤の確立

JA長野県
JA長野中央会　営農農政部
〒380-0826　長野市北石堂町1177-3
TEL.026-236-2030　FAX.026-236-2008

いいJAん! 信州
https://www.iijan.or.jp/

長野県のおいしい食べ方
公式Twitter